

1. 教育方針

本県の次代の農業経営を担う優れた人材を育成するとともに、地域社会における農業の振興等に指導的役割を果たす個性豊かな人材を育成する。

- (1) 近代的な農業を行うために必要とされる高度な専門知識技術および経営能力を養成する。
- (2) 実践学習を通じて、農業者としてふさわしい幅広い視野を持った経営能力および組織活動能力を養成する。

2. 教育方法

授業は実践学習を基本とし、講義・演習・実習により行う。第1学年前期の4ヶ月で教養科目と専門共通科目を学習する。5月には一週間の農業体験学習がある。また、6月から専攻別の実習が始まる。9月以降の後期から第2学年前期にかけて専攻学習を多く取り入れ、農業の基礎知識、技術習得と幅広い教養を養うとともに専門知識の学習を行なう。さらに専攻別のプロジェクト学習による実践的な栽培（飼養）技術の習得を行う。

第2学年では、9月から2ヶ月間の農業体験学習により現場での農業技術や経営感覚を学ぶ。（茶、果樹は6月中旬から）

第2学年後期後半には卒業に向けて専門、教養科目の学習を行うとともに、プロジェクト学習や卒業論文のまとめを行い、これを生涯学習への出発とする。

年間学業体系

月 学年・専攻		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
		第1学年	基礎学習（農業体験学習も含む）										
専攻学習（実習のみ）					教養・専攻学習					教養・専攻学習			
第2学年	作物 野菜 花き 畜産	専攻学習					農業体験学習		教養・専攻学習			卒論作成	
	茶 果樹	専攻学習		農業体験学習			農業体験学習		教養・専攻学習			卒論作成	

3. 教育計画
 (1) 全体計画

①専攻コースと教育場所

課 程	専 攻 コ ー ス	教 育 場 所
農 産	作 物	本 校
	茶	茶 業 指 導 所
園 芸	野 菜	本 校
	花 き	
	果 樹	
畜 産	畜 産	畜産技術振興センター

②科目区分別時間数および単位数

教 科 区 分	1 年	2 年	合 計
教 養 科 目	1 4 4 (8)	4 8 (3)	1 9 2 (1 1)
共 通 科 目	4 4 8 (2 2)	4 9 6 (1 8)	9 4 4 (4 0)
専 攻 科 目	7 8 4 (3 1)	6 7 2 (2 4)	1, 4 5 6 (5 5)
合 計	1, 3 7 6 (6 1)	1, 2 1 6 (4 5)	2, 5 9 2 (1 0 6)

③学習時間

校 時	時 間	備 考
第 1・2 時 限	9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0	講義、実習、ゼミナール等
第 3・4 時 限	1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0	
第 5・6 時 限	1 3 : 1 0 ~ 1 4 : 4 0	
第 7・8 時 限	1 4 : 5 0 ~ 1 6 : 2 0	
プロジェクト	1 6 : 2 0 ~ 1 7 : 0 0	実習記録等

④資格免許等の取得

農業経営に必要な下記の資格免許を取得する機会が与えられる。

資格免許名	学年	時期
大型特殊免許（農耕用）	1	5月中旬
けん引免許（農耕用）	1	6月中旬
危険物取扱者（乙種第4類）	1, 2	7月、11月
ボイラー取扱技能講習	1	10月中旬
毒物劇物取扱者（農業用品目）	1, 2	2月下旬
フォークリフト技能講習	1	7月、8月
ガス溶接技能講習	1, 2	9月上旬
アーク溶接特別教育	1, 2	7月下旬
家畜人工授精師（畜産専攻生）	1, 2	2020年2月
床上操作式・小型移動式クレーン運転技能講習	1, 2	7月～8月
小型車両系建設機械特別教育	1, 2	7月下旬

⑤学校行事等

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
行事	入学・入校式	プロジェクト計画検討会 体育大会 東海近畿地区スポーツ大会 一年生農業体験学習	けん引研修	前期試験	夏季休業	二年生農家体験学習（二か月）	一年生研修旅行	収穫祭 けん引研修 農業体験学習報告会	プロジェクト研究発表会	後期試験① 東海近畿農業大学校研究・意見発表会	全国農業大学校学生交換大会・発表会	卒業証書・修了証書授与式 後期試験②

(2) 教育科目

◎各科目別総時間数

科目区分	科目名	時間数 (単位)		合計	科目内容
		1年生	2年生		
教	養	144 (8)	48 (3)	192 (11)	社会人として身につけなければならない教養科目
共	通	448 (22)	496 (18)	944 (40)	各専攻コースに共通して必要な農業の基礎的科目 (農業体験学習も含む)
専攻科目	専攻教科	784 (31)	512 (19)	1,296 (50)	各専攻コースごと別記のとおり
	卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	プロジェクト学習の成果にもとづく調査・研究および論文作成
	小計	784 (31)	672 (24)	1,456 (55)	
合計		1,376 (61)	1,216 (45)	2,592 (106)	

特別活動	学校行事	入学・入校式、始業式、終業式、東海近畿地区スポーツ大会、校内体育大会、研修旅行、収穫祭、卒業証書・修了証書授与式
	特別学習	指導農業士及び本校卒業生等第1線で活躍する農業者の講話、特別講義、進路学習、合宿研修
	自治活動	学生自治会主催の活動 (球技大会・新入生歓迎会等)

① 教養科目

科目名	時間数(単位)		合計	科目内容
	1年生	2年生		
法律 (農業と法律)	16 (1)	0	16 (1)	農業経営を行う上で必要な法律の基礎的知識を習得する。 1. 法律のしくみ 2. 契約法と物件法 3. 農業関連法(農地法、食糧法等) 4. 訴訟法と裁判制度
経済 (農業と経済)	16 (1)	0	16 (1)	農業経営を行う上で必要な経済学の基礎的知識を習得する。 1. マスコミ等で聞きする経済学用語 2. 市場価格形成の仕組み 3. 好況と不況 4. 日本経済の現状とゆくえ
英語	16 (1)	0	16 (1)	実用的な英会話により、国際的なコミュニケーション能力を習得する。
体育	32 (1)	0	32 (1)	スポーツを通じて基礎体力の維持向上と集団でのコミュニケーション能力を習得する。また、生涯健康で暮らせる心身を維持する能力を養成する
倫理Ⅰ (人間と社会)	16 (1)	0	16 (1)	1. 人間としての生き方や社会との関わり 2. 集団の中での個人の役割(協調性、リーダーシップ) 3. 社会常識、礼儀作法、話し方等
倫理Ⅱ (人間と社会)	0	16 (1)	16 (1)	学生が興味を持ったり見聞きしているであろう時事的な話題などを取り上げ、人間としての生き方や社会との関わり、また幅広いものの見方および考え方を学ばせる。
情報処理Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 情報処理の基礎 2. ワープロ・表計算ソフトの利用 3. 表・グラフによる数値の把握 4. W E Bの利用による情報発信力の習得 5. 栽培管理アプリの体験
農業基礎	16 (1)	0	16 (1)	1. 農学の基礎知識の習得 2. 生物学の基礎知識の習得 3. G A Pの基礎
学習方法論Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 実習やプロジェクト学習に必要な計算能力の習得 2. 論文等の作成に必要な文章作成・文章表現能力の習得
学習方法論Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. プロジェクト学習に必要な発想力・企画力 2. プロジェクト学習をまとめる方法論 3. 問題解決の方法論
地理 (滋賀の地理と文化)	0	16 (1)	16 (1)	1. 滋賀県の地理・歴史 2. 滋賀県の風土・文化 3. 農村社会の成り立ち
合計	144 (8)	48 (3)	192 (11)	

② 専門・共通科目

科目名	時間数(単位)		合計	科目内容
	1年生	2年生		
農業政策	16 (1)	0	16 (1)	1. 世界の農業情勢 2. 日本の農業情勢と政策 3. 滋賀県の農業施策、滋賀県農業の現状と課題 しがの農業水産新戦略プラン、農業関係団体、農業制度資金等
農業経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 個別経営のとらえ方と分析方法・農家の経済的しくみ・ 農家経営のとらえ方・比較のための分析指標 2. 家族経営と企業経営の特徴対比 3. 農業経営の法人化とその意義
農業簿記	32 (2)	0	32 (2)	農業簿記を中心とした複式簿記の基礎知識の習得 1. 簿記の原理 2. 取引 3. 仕訳 4. 減価償却 5. 決算(財務諸表の作成) パソコンを利用した簿記ソフトの操作
農薬概論	16 (1)	0	16 (1)	1. 農薬を理解するための化学知識の習得 2. 農薬およびその使用に関する基礎知識の習得
6次産業化農業	0	32 (2)	32 (2)	1. 第6次産業化の意義 2. 直売経営の特徴 3. 農産加工の実際・製造現場 4. マーケティング(消費者ニーズの把握、ブランドとデザイン) 5. 加工・直売上の注意事項(表示、生産管理工程等) 6. 事例研修および講演
農産物流通Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 流通の現場を研修し、農産物の流通実際を学ぶ 2. 食品加工の現場を研修し、農産物の加工の実際を学ぶ
農産物流通Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. 農産物マーケティングの基礎について 2. 農産物流通(市場流通、市場外流通)のしくみとその変遷 3. 生鮮農産物の輸入の実態とその流通 4. 産地としての新たな戦略(輸出も含む)
農業技術概論Ⅰ (作物・野菜)	16 (1)	0	16 (1)	1. 稲・麦・大豆生産技術の概要 2. 野菜生産技術の概要
農業技術概論Ⅱ (花き・果樹)	16 (1)	0	16 (1)	1. 花き生産技術の概要 2. 果樹生産技術の概要
農業技術概論Ⅲ (茶・畜産)	16 (1)	0	16 (1)	1. 茶生産技術の概要 2. 畜産生産技術の概要
農業機械 (学科)	16 (1)	0	16 (1)	1. 農業機械と農作業ー意義と役割 2. エンジンの基礎知識 3. トラクタの構造と機能 4. 主要農業機械の構造と機能 5. 整備と安全作業
農業機械 (実技)	32 (1)	0	32 (1)	大型特殊自動車(農耕用)の免許取得 1. トラクタ(単体)の実技 2. けん引の実技
土壌肥料	16 (1)	0	16 (1)	1. 土壌と肥料の基礎知識 2. 作物栄養と施肥 3. 水田土壌、畑地・施設土壌の特徴と施肥、土壌改良
気象と農業災害	16 (1)	0	16 (1)	1. 気象概論と滋賀の気象 2. 気象災害と対策 3. 気象情報の入手と活用 4. 獣害対策
特殊技術学習	16 (1)	0	16 (1)	1. 基礎化学の習得 2. 危険物取扱者(乙種4類)資格取得に必要な知識の習得
労働衛生	16 (1)	0	16 (1)	1. 農業労働の特徴 2. 農作業安全と作業環境の改善 3. 労働設計の樹立
情報処理Ⅱ	0	32 (2)	32 (2)	1. 農業におけるパソコン利用事例、2. データ整理と図表作成 3. ICT農業について(データの利用) 4. プレゼンテーション用ソフトの利用技術
環境と農業	32 (2)	0	32 (2)	1. 食の安全と農業 2. 資源循環型農業のあり方と展開方向 3. 滋賀県の環境と農業技術(環境こだわり農業) 4. 総合的病害管理技術 5. 有機農業の技術と認証
農業体験学習Ⅰ	32 (1)	0	32 (1)	先進農家において農作業を体験し、現場での農業技術やその 経営感覚を学ぶとともに合宿を通して協調性と社会性の育成を図る。
農業体験学習Ⅱ	0	416 (13)	416 (13)	先進農家において2ヶ月間地域農業の実態に接し、農業技術やその経 営感覚を学ぶ。
基礎実習	128 (4)	0	128 (4)	農業に関する技術を総合的に体験させ、農業者としての基礎的資質向 上を図るとともに、刈り払い機をはじめ運搬機やトラクタ等を使った 作業等基本的な農業機械安全利用の知識と意識を高める。
合計	448 (22)	496 (18)	944 (40)	

③専攻コース別科目
ア. 農産課程・作物専攻コース

科目名	時間数 (単位数)		合計	科目内容
	1年生	2年生		
水稲栽培Ⅰ	32 (2)	0	32 (2)	1. 水稲の一生と栽培管理 (育苗、移植、本田管理、幼穂発育期、登熟、収穫など) 2. 本県稲作の基本技術 (品種、土づくり、食味向上、環境と調和した技術)
水田雑草対策	0	16 (1)	16 (1)	1. 主要水田雑草の種類と特徴 2. 水田雑草防除技術－雑草剤の種類、防除体系、 農薬に頼らない方法 3. 麦・大豆の雑草対策
育種と採種	0	16 (1)	16 (1)	育種の原理と遺伝の法則、育種の方法(分離育種、交雑育種、雑種強勢)、品種の維持と増殖(特性維持)
複合経営・ 多角経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 土地利用型(水田)農業の成り立ちおよび経営の発展 2. 複合経営・多角経営の取り組み状況 3. 複合化の技術(省力稲作、少量土壌培地耕、ポット栽培等)
水稲栽培Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. 低コスト稲作 2. 新しい需要に向けた稲作について
水稲こだわり 栽培	0	16 (1)	16 (1)	1. 環境こだわり栽培技術について 2. 有機栽培技術について
麦類の栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. 4麦(小麦・六条大麦・二条大麦・はだか麦)と利用方法 2. 本県麦の特徴 3. 栽培管理 4. 経営指標
大豆栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. 本県大豆の特徴 2. 品種と利用 3. 栽培管理 4. 経営指標
植物病理	16 (1)	0	16 (1)	植物病害の基礎知識、伝染方法、病害の発生と環境条件
応用昆虫	16 (1)	0	16 (1)	害虫の基礎知識、害虫の診断と発生予察
作物病虫害	16 (1)	0	16 (1)	水稲・麦・大豆に発生する病虫害の診断と生態、 農薬の特性と安全利用、防除技術(耕種・物理・生物防除)、 総合的病虫害管理技術(IPM)
水田野菜	16 (1)	0	16 (1)	水田作野菜(転作・裏作)の作付け体系、キャベツ、ハクサイ、 ブロッコリー、ナバナ、ネギ他に関する各論(来歴、性状および 適応性、品種、作型、栽培管理、機械化) 経営上の特性、先進地における栽培状況
稲作経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 米をめぐる情勢－統計資料から 2. 米穀流通のしくみの変遷 3. 稲作経営分析－米生産費調査結果より
大規模経営と 集落組織	16 (1)	0	16 (1)	組織経営体の経営形態と特徴 集落営農の類型 農業法人 個別経営体
農業機械Ⅰ (水田作業機)	32 (2)	0	32 (2)	トラクタ、コンバイン、田植機の構造と機能及び整備
農業機械Ⅱ (内燃機関)	0	32 (2)	32 (2)	エンジンの種類と構造(ディーゼル・4サイクル・2サイクル) 分解・組立技術
生産管理	16 (1)	0	16 (1)	スマート農業(ICT農業の情報収集、ICT技術を活用した 生育環境の可視化など)、GAP演習(農作業行程の確認 、リスク評価、改善策の検討、手順書作成など)
専攻演習 (ゼミナール)	64 (2)	96 (3)	160 (5)	選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をする とともに発表討議を行う。技術・経営について検討を加え、 常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。
実習および プロジェクト学習	496 (15)	320 (10)	816 (25)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に 基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行い、各自がプロ ジェクトとしてまとめる。
卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合計	784 (31)	672 (24)	1,456 (55)	

イ. 農産課程・茶専攻コース

科目名	時間数 (単位)		合計	科目内容
	1年生	2年生		
茶業経営Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	茶業経営の性格、茶業経営の現状と課題、茶業経営の動向
茶業経営Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	最近における茶生産の動向、茶業における生産構造の特徴、茶栽培農家の経営問題、茶の流通
複合経営・多角経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 土地利用型(水田)農業の成り立ちおよび経営の発展 2. 複合経営・多角経営の取り組み状況 3. 複合化の技術(省力稲作、少量土壌培地耕、ポット栽培等)
茶の栽培基礎Ⅰ	32 (2)	0	32 (2)	茶の形態、茶の基礎用語、茶の生育と生態、茶の栄養生理
茶の栽培基礎Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	茶の栽培法、作況調査、被覆栽培
茶の栽培応用Ⅰ	32 (2)	0	32 (2)	茶の品種特性、茶園の造成、凍霜害とその対策、その他気象災害対策
茶の栽培応用Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	摘採とせん枝、茶樹の更新、年間作業計画、栽培管理作業の機械化
植物病理	16 (1)	0	16 (1)	植物病害の基礎知識、伝染方法、病害の発生と環境条件
応用昆虫	16 (1)	0	16 (1)	害虫の基礎知識、害虫の診断と発生予察
茶の病害虫	16 (1)	0	16 (1)	病害虫の発生生態、病害虫の被害、防除方法、農業の特性と安全使用、天敵を利用した防除、化学合成農薬を使用しない防除方法
生産管理	16 (1)	0	16 (1)	スマート農業(情報収集、ICT農業見える化など)GAP演習(作業行程確認、リスク評価、改善策検討、手順書作成など)
茶園の施肥法Ⅰ	32 (2)	0	32 (2)	茶の養分吸収特性、肥料の種類と特性、土壌改良資材の種類と施用法、微生物の役割、施肥時期・施肥量と収量・品質、年間の施肥作業、施肥設計法
茶園の施肥法Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	茶園における施肥の実際、茶園における環境保全型施肥技術、新しい施肥法と環境こだわり農業
茶の製造・再製Ⅰ	32 (2)	0	32 (2)	茶の分類、製茶工場と製茶機械、茶の製造法
茶の製造・再製Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	茶の審査法、茶の再製加工、茶の保管技術
茶の化学	0	16 (1)	16 (1)	味・香りと化学成分、茶の水色・色沢と化学成分、茶の摘採期・熟度・茶種と化学成分
専攻演習 (ゼミナール)	64 (2)	96 (3)	160 (5)	選定した課題について文献を収集・整理し、発表討議する。技術・経営について検討を加えるなど、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。
実習および プロジェクト学習	496 (15)	320 (10)	816 (25)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づき実践的技術や専門知識の理論付けを行い、各自がプロジェクトとしてまとめる。
卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合計	784 (31)	672 (24)	1,456 (55)	

ウ. 園芸課程・野菜専攻コース

科目名	時間数(単位)		合計	科目内容
	1年生	2年生		
野菜総論	16 (1)	0	16 (1)	野菜園芸に関する基礎知識(種類と分類、生態と作型、栽培管理の基礎、生産と消費)
キュウリ栽培	16 (1)	0	16 (1)	キュウリに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、経営上の特性、先進地における栽培状況調査
トマト栽培	16 (1)	0	16 (1)	トマトに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、経営上の特性、先進地における栽培状況調査
イチゴ栽培	16 (1)	0	16 (1)	イチゴに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、経営上の特性、先進地における栽培状況調査
軟弱野菜栽培	16 (1)	0	16 (1)	ホウレンソウ、シシトウ、コマツ他に関する各論、来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、経営上の特性、先進地における栽培状況調査
水田野菜	16 (1)	0	16 (1)	水田作野菜(転作・裏作)の作付け体系、キャベツ、ハクサイ、ロッコロー、ナバナ、ネギ他に関する各論(来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、機械化)経営上の特性、先進地における栽培状況
ナス栽培	0	16 (1)	16 (1)	ナスに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、経営上の特性先進地における栽培状況調査
メロン栽培	0	16 (1)	16 (1)	メロンに関する来歴、性状および適応性、品種、作型、栽培管理、経営上の特性、先進地における栽培状況調査
根菜類栽培	0	16 (1)	16 (1)	ダイコン、カブ、任類他に関する各論、来歴、性状および適応性、品種、作型栽培管理、経営上の特性、県内外の先進地における栽培状況調査
植物病理	16 (1)	0	16 (1)	病気の基礎知識、伝染方法、病害の原因と診断、病害の発生と環境条件
応用昆虫	16 (1)	0	16 (1)	害虫の基礎知識、害虫の診断と発生予察
野菜経営Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	野菜経営のための基礎知識(経営の三要素、売上、経費、経営安定の方法)
野菜経営Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	野菜経営に影響のある社会動向 消費者に目を向けた野菜生産 野菜経営の類型別特徴と現地調査
複合経営・多角経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 土地利用型(水田)農業の成り立ちおよび経営の発展 2. 複合経営・多角経営の取り組み状況 3. 複合化の技術(省力稲作、少量土壌培地耕、ポット栽培等)
野菜流通Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	野菜流通の基本となる市場流通の仕組みと役割 市場を取りまく流通実態把握
野菜流通Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	多様化する野菜流通と需給の仕組み 本県での市場外流通実態の把握
生産管理	16 (1)	0	16 (1)	スマート農業(情報収集、ICT農業見える化など) GAP演習(作業行程確認、リスク評価、改善策検討、手順書作成など)
野菜病虫害	0	16 (1)	16 (1)	病虫害・雑草の種類と被害の知識、防除方法 農薬の知識と適正使用、主要病虫害の総合的防除
園芸用施設	32 (2)	0	32 (2)	1. 栽培用施設の種類の構造 (1)施設の種類の特性(2)被覆資材、保温資材の種類の特性 (3)作物の種類の施設の特徴 2. 環境制御技術とその機器装置 (1)保温の原理、(2)省エネの理論と暖房・換気・冷房機器 (3)日長制御(4)炭酸ガス施用と機器装置 (5)養液栽培装置の種類と特徴(6)土壌消毒の目的と装置
専攻演習(ゼミナール)	64 (2)	96 (3)	160 (5)	選定した課題について文献を収集・整理し、発表討議する。技術・経営について検討を加えるなど、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。
実習およびプロジェクト学習	496 (15)	320 (10)	816 (25)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行い、各自がプロジェクトとしてまとめる。
卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合計	784 (31)	672 (24)	1,456 (55)	

エ. 園芸課程・花き専攻コース

科目名	時間数(単位)		合計	科目内容
	1年生	2年生		
花き総論	16 (1)	0	16 (1)	1. 花き栽培に関する基礎知識(種類と分類、生理生態、開花調節技術)
バラ栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. バラの生産動向 2. バラの栽培基礎・品種、経営、仕立て方法とその特徴、施肥法、病害虫防除
カーネーション栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. カーネーションの生産動向 2. カーネーションの栽培基礎・品種、経営
生産管理	16 (1)	0	16 (1)	スマート農業(情報収集、ICT農業見える化など) GAP演習(作業行程確認、リスク評価、改善策検討、手順書作成など)
草花栽培	0	16 (1)	16 (1)	1. 1・2年草の定義と分類 2. 播種方法 3. 主要品目の生理生態と栽培技術(トルコギキョウ、アスター、ヒマリ、ゲイトウ、ストック、ギンギョソウ、スターチス等)
キク栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. キクの生産動向 2. キクの栽培基礎・品種、経営、開花調節
宿根草・球根類	0	16 (1)	16 (1)	1. 宿根草の生理生態と栽培技術 2. 球根の生理生態と栽培技術
鉢花・花苗栽培	16 (1)	0	16 (1)	1. 鉢花・花苗の生産動向(生産の歴史と現状)と現地視察 2. 鉢花の基礎知識:品目、経営、用土、栄養生理、施肥 3. 花苗の基礎知識:各品目の栽培技術
洋ラン・観葉植物栽培	0	16 (1)	16 (1)	1. 洋ラン・観葉植物の生産動向(生産の歴史と現状)、視察 2. 洋ランの基礎知識:品目、経営、各品目の栽培技術 3. 観葉植物の基礎知識:品目、経営、各品目の栽培技術
フラワーデザインⅠ	16 (1)	0	16 (1)	1. フラワーデザインの概論と歴史 2. 関連資材・道具の基礎知識 3. カット・テーピング・ワイヤリングの方法と実践
フラワーデザインⅡ	0	16 (1)	16 (1)	1. トラディショナルなアレンジメント 2. 季節のアレンジメント 3. アレンジメントの応用
花き経営Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 需要と生産①国内および本県の需要動向と産地の動向②花き生産の条件(自然的、経営的、生物的)③作物選択と栽培技術 2. 施設と費用①施設と整備②生産費③所要労力④収益性
花き経営Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. 花き経営の先進的事例について 2. 花き流通に関する新たな取り組みについて
花き流通	16 (1)	0	16 (1)	1. 花きの流通・販売・消費の現状 2. 品質保持技術、 3. 市場流通の仕組み 4. 花き直売の現状と課題
植物病理	16 (1)	0	16 (1)	病気の基礎知識、伝染方法、病害の原因と診断、病害の発生と環境条件
応用昆虫	16 (1)	0	16 (1)	害虫の基礎知識、害虫の診断と発生予測
花き病害虫	0	16 (1)	16 (1)	1. 主要花きにおける病害虫の種類と発生要因 2. 病害虫の防除方法および農薬等の使用方法
複合経営・多角経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 土地利用型(水田)農業の成り立ちおよび経営の発展 2. 複合経営・多角経営の取り組み状況 3. 複合化の技術(省力稲作、少量土壌培地耕、ポット栽培等)
園芸用施設	32 (2)	0	32 (2)	1. 栽培用施設の種類と構造 (1)施設の種類と特性(2)被覆資材、保温資材の種類と特性 (3)作物の種類と施設の特徴 2. 環境制御技術とその機器装置 (1)保温の原理、(2)省エネの理論と暖房・換気・冷房機器 (3)日長制御(4)炭酸ガス施用と機器装置 (5)養液栽培装置の種類と特徴(6)土壌消毒の目的と装置
専攻演習(ゼミナール)	64 (2)	96 (3)	160 (5)	選定した課題について文献を収集・整理し、発表討議する。技術・経営について検討を加えるなど、常に問題意識点を持つように努め、発表力の向上を図る。
実習およびプロジェクト学習	496 (15)	320 (10)	816 (25)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行い、各自がプロジェクトとしてまとめる。
卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合計	784 (31)	672 (24)	1,456 (55)	

オ. 園芸課程・果樹専攻コース

科目名	時間数 (単位)		合計	科目内容
	1年生	2年生		
果樹総論	16 (1)	0	16 (1)	果樹園芸の概要と生育過程における生理特性(開花結実と果実肥大、果樹の生長周期、整枝、剪定、繁殖)
カキ栽培	16 (1)	0	16 (1)	カキの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴、先進地の事例紹介
ナシ栽培	32 (2)	0	32 (2)	ナシの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴、先進地の事例紹介
ブドウ栽培	32 (2)	0	32 (2)	ブドウの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴、先進地の事例紹介
モモ栽培	32 (2)	0	32 (2)	モモの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴、先進地の事例紹介
イチジク栽培	16 (1)	0	16 (1)	イチジクの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴、先進地の事例紹介
複合経営・多角経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 土地利用型(水田)農業の成り立ちおよび経営の発展 2. 複合経営・多角経営の取り組み状況 3. 複合化の技術(省力稲作、少量土壌培地耕、ポット栽培等)
生産管理	16 (1)	0	16 (1)	スマート農業(情報収集、ICT農業見える化など)GAP演習(作業行程確認、リスク評価、改善策検討、手順書作成など)
ブルーベリー栽培	0	16 (1)	16 (1)	ブルーベリーの品種、生理特性、栽培管理、経営上の特徴、先進地の事例紹介
各種果樹栽培	0	16 (1)	16 (1)	ウメ、スモモ、リンゴ、オウトウ、カンキツ類等の栽培概要、先進地の事例紹介
果樹経営Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	果樹経営の特徴、果樹経営の売上高計算・経費計算 経営形態と経営戦略、経営モデル現地調査
果樹経営Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	果樹経営指標と経営試算
果樹栽培環境	0	16 (1)	16 (1)	果樹の生理障害ならびに生産環境(気象災害)
果実の化学	0	16 (1)	16 (1)	果実収穫後の生理的变化と追熟、貯蔵、輸送等の方法
植物病理	16 (1)	0	16 (1)	病気の発生、伝染方法、病害の原因と診断、病害の発生と環境条件
応用昆虫	16 (1)	0	16 (1)	害虫の基礎知識、害虫の診断と発生予察
果樹病虫害	0	16 (1)	16 (1)	果樹の主要病虫害の種類と発生要因 病虫害の防除方法および農薬の使用方法 果樹主要病虫害の総合的な防除について
専攻演習 (ゼミナール)	64 (2)	96 (3)	160 (5)	選定した課題について文献を収集・整理し、発表討議する。技術・経営について検討を加えるなど、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。
実習および プロジェクト学習	496 (15)	320 (10)	816 (25)	農作物栽培の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行い、各自がプロジェクトとしてまとめる。
卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合計	784 (31)	672 (24)	1,456 (55)	

カ. 畜産課程・畜産専攻コース

科目名	時間数 (単位数)		合計	科目内容
	1年生	2年生		
畜産総論	16 (1)	0	16 (1)	1. 家畜の品種と特徴 2. 畜産の歴史 3. 日本の畜産 4. 世界の畜産 5. 畜産物の生産 6. 環境保全 7. 関係法令
畜産経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 畜産経営とは 2. 経営の目標と収益性 3. 酪農経営 4. 肉用牛経営 5. 養豚経営 6. 採卵鶏・肉用鶏経営 7. 記帳と経営分析 8. 経営改善計画策定
畜産物流通	0	16 (1)	16 (1)	1. 日本の畜産物の生産と流通状況 2. 世界の畜産物の生産と流通状況 3. 安全・安心な畜産物の生産と消費者意識
複合経営・ 多角経営	16 (1)	0	16 (1)	1. 土地利用型(水田)農業の成り立ちおよび経営の発展 2. 複合経営・多角経営の取り組み状況 3. 複合化の技術(省力稲作、少量土壌培地耕、ポット栽培等)
飼養管理Ⅰ	48 (3)	0	48 (3)	1. 養鶏 4. 肉用牛 2. 養豚 5. 畜舎の構造及び施設機械 3. 酪農 6. 糞尿処理施設の構造及び理論
飼養管理Ⅱ	0	32 (2)	32 (2)	1. 生産物と管理 2. 環境と飼養管理 3. 生産物の品質保持
家畜育種	0	16 (1)	16 (1)	1. 遺伝学の基礎 2. 家畜の改良方法と方向 3. 家畜の選抜方法とその特徴 4. 家畜の体型審査および測定方法 5. 家畜の登録制度と関連法規
家畜栄養	32 (2)	0	32 (2)	1. 飼料の種類 2. 栄養素の種類 3. 家畜の消化器官の構造と消化の特徴 4. 栄養と生産物 5. 飼料計算 6. 飼料摂取の環境要因
家畜衛生	32 (2)	0	32 (2)	1. 危機管理 2. 主な家畜伝染病 3. 免疫の仕組みとワクチン 4. 消毒の意義とその方法 5. 衛生的な畜舎環境 6. 関連法規と畜主の義務
家畜繁殖	16 (1)	0	16 (1)	1. 授精から分娩または産卵までの経過 2. 生殖器官の構造および機能 3. 精子・卵子の構造及び役割 4. 繁殖機能に係るホルモンおよび作用 5. 繁殖の周期性と生殖器および行動の変化 6. 精子生理 7. 種付け理論
生産管理	16 (1)	0	16 (1)	スマート農業(情報収集、ICT農業見える化など) GAP演習(作業行程確認、リスク評価、改善策検討、手順書作成など)
生物工学	0	16 (1)	16 (1)	1. 胚移植総論 2. 胚の構造と生理 3. 過剰排卵処理と胚の採取・移植 4. 胚操作 5. 胚移植技術の今後の展望
家畜解剖	16 (1)	0	16 (1)	1. 家畜の骨格と筋肉 2. 家畜の内臓 3. 家畜の血管 4. 家畜の神経
飼料作物Ⅰ	16 (1)	0	16 (1)	1. 飼料作物の種類と特徴 2. 作業体系と作業機械の種類 3. 製品の品質評価 4. 病害虫の種類と防除法
飼料作物Ⅱ	0	16 (1)	16 (1)	1. 草地造成工法の種類と特徴 2. 牧草の種類と特徴 3. 草地での作業体系と作業機械の種類 4. 牧野における栽培の方法 5. 放牧技術と家畜管理
専攻演習 (ゼミナール)	64 (2)	96 (3)	160 (5)	選定した課題について文献を収集・整理し、発表討議する。技術・経営について検討を加えるなど、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。
実習および プロジェクト学習	496 (15)	320 (10)	816 (25)	飼養管理の基本技術を習得すると共に、自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論付けを行い、各自がプロジェクトとしてまとめる。
卒業論文	0	160 (5)	160 (5)	1. プロジェクトの内容の検討と課題の決定 2. 課題解決しプロジェクトとしてまとめる 3. 報告会での発表と論文として発刊する
合計	784 (31)	672 (24)	1,456 (55)	

(3) 実習およびプロジェクト学習計画

①ねらいと主な内容

専攻	実習のねらい	実習の内容	
共通	専攻の決定前に、各専攻の主な作業を総合的に体験させ、農業者としての基礎的資質の向上を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 各専攻（作物、野菜、花き、果樹）の圃場実習により、各部門の基本的な栽培管理作業を体験させる。 農業機械の運転技術の習得と簡単な点検、整備実習 	
作物	各部門、品目に関する基本的な技術習得をはかる。さらに、各人のプロジェクト課題に基づき、より高度な知識と技術の習得を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 水稻の栽培技術の習得（品種、施肥、水管理等） 麦、大豆の栽培技術の習得 農業機械の効率的な作業法 転作畑での露地野菜(水田野菜)栽培技術 	
茶		<ol style="list-style-type: none"> 茶栽培管理技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> ○被覆栽培、整枝・せん枝、施肥 ○病虫害防除、茶園改植等 緑茶製造技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> ○一番茶、二番茶製造 ○荒茶再製加工、茶包装技術等 	
野菜		<ol style="list-style-type: none"> 生理生態の理解 <ul style="list-style-type: none"> ○果菜類（メロン、トマト、キュウリ、イチゴ他） ○葉根菜類（キャベツ、ダイコン他） 栽培管理技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> ○施設野菜の育苗、本圃栽培管理技術 ○養液栽培技術（少量土壌培地耕、プランタ耕他） 	
花き		<ol style="list-style-type: none"> 切花栽培技術 <ul style="list-style-type: none"> ○バラ、カーネーション、キク、ストック、トルコキキョウ等の少量土壌培地耕、プランタ耕、養液土耕 鉢物、花壇苗の栽培技術 <ul style="list-style-type: none"> ○シクラメン、ビオラ、ジニア等 開花調節技術 <ul style="list-style-type: none"> ○日長処理、暖・冷房技術、ホルモン剤利用 	
果樹		<ol style="list-style-type: none"> 主な樹種 <ul style="list-style-type: none"> ○モモ、カキ、ナシ、ブドウ、イチジク 栽培管理技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> ○樹体管理、土壌管理 ○整枝、剪定、病虫害防除 ○植物成長調整剤使用方法他 	
畜産	肉用牛、乳用牛、肉用鶏、飼料作物を対象に飼養管理技術等を習得し、プロジェクト課題に基づき、より高度な技術の習得を図る。	肉用牛	<ol style="list-style-type: none"> 繁殖牛の飼養衛生管理技術 肥育牛の飼養衛生管理技術 畜舎の環境管理技術
		乳用牛	<ol style="list-style-type: none"> 乳用牛の飼養衛生管理技術 乳用育成牛の飼養衛生管理技術 畜舎の環境管理技術
		肉用鶏	<ol style="list-style-type: none"> 近江しゃもの飼養管理技術 鶏舎の環境管理技術
		飼料作物	<ol style="list-style-type: none"> 飼料作物及び牧草類の栽培技術 飼料作物及び牧草類のサイレージ化技術